



Pick Up News 3月16日の夜に襲った大地震。体育館の一部損傷もあり、安全を最優先に18日に予定されていた学位授与式（卒業・修了式）は23日に延期に。予定変更により出席できなくなった学生もいました。22日は凍えるような寒さと雪。どうなることかと思いましたが、23日は寒いながらも晴れ間も見え、無事に式を挙行することができました。卒業生・修了生は、2年間のコロナ禍での大学生活、そしてダメ押しの地震。厳しい環境の中で学び巣立つことになりました。もっと自由で、大らかな時間の中での学生生活を味わせてあげたかったという思いもありますが、この状況下で学び、卒業・修了する皆さんは今後の世界を生き抜く「力」を身につけているはずです。それぞれの道での活躍を期待します。学びに終わりはありません。資格取得や実務の世界での努力を期待します！皆さんは建築学科の誇りです！

祝 建築学科卒業 125名 建築学専攻修了 9名

式に出席できなかった学生もいましたが、記念写真を撮影することができました。式の延期ににも関わらず多くの女子学生が袴姿で参加できてよかったです。今年は初めての試みとして曹先生操縦によるドローンによる撮影も。この人文字、わかりますか？

**T.I.T.
ARCHI
2022**

今年の学位授与式（卒業式）は学科ごとに教室に集まってのライブ中継を交えての形式に。各賞の発表と尚建会大賞の授与が行われました。



Pick Up Lab. 生産・材料系分野に属している**佐々木研究室**は、昨年度からスタートし、10月には二期生となる3年生が9名入りました。ゼミ研修では東北の工務店の取組や外国人技能実習制度についてインタビュー調査を用いた研究をしています。海外の制度に関する研究は、コロナ禍もありオンラインを活用しながら進めています。情勢もあり新入生歓迎会など出来ていませんが、4年生と3年生の交流の場として、4年生による研究説明や就職相談ができる場を設けるなど、工夫をしています。



4年生と3年生の交流の場

Pick Up Student

「建築の死は、解体された時でなく、人々に忘れられた時である。」さて、あなたの心に残っている建築物はなんですか。私の心に残っている建築物は、母校の小学校だ。その小学校は、有名な建築家が設計したわけでも、デザインに長けているわけでもない。しかしながら、その場所で体験したことは私の財産であり、現在なお私の記憶の中に深く刻まれている。その小学校は今でも子どもたちの学び舎として使われているが、もし解体されてしまったとしても私の自慢の小学校に変わりはない。私は、そのように誰かの記憶にあり続けるような建築を追求したいと考え、建築を学んでいる。

Pick Up Student

私は2年間の大学生活の中で沢山挑戦しました。グループディスカッションやグループ活動の他にSDL・地域未来学・現場実習等の課外活動に取り組みました。来年度から就職活動がある中でそれに活かせる良いきっかけが出来たらと思い様々な活動をしました。専門科目では設計にとっても時間をかけました。自分の考えた作品に評価がつき、また更にレベルアップできる授業スタイルが好きです。コロナ感染によって2年間普通と異なった学生生活を過ごしていました。それでもどんどん建築がすきになっていき、私が知らない建築の魅力も未だ沢山あることに気づきました。残りの大学生活も自分のスキルアップのため学内学外での幅広い活動に参加し挑戦していきたいと思っています。



3年 五十嵐 健太くん
鶴岡工業高校 出身



2年 大友 由羅さん
古川工業高校 出身